
学校法人同朋学園 新シンボルマークデザイン募集要項

学校法人同朋学園は、「共なるいのち」を生きる」を建学の精神とし、同朋大学、名古屋音楽大学、名古屋造形大学、同朋高等学校、同朋幼稚園の5機関を擁しています。

学校法人同朋学園が2021年に創立100周年を迎えることを記念し、新たな学園シンボルマークをみなさまから広く募集します。デザイン経験の有無は問いません。同朋学園の理念をあらわす新たなアイデアを歓迎いたします。

応募資格	◎不問(個人、グループ単位いずれも可) *応募時点で応募要項記載事項に同意したとみなします。
募集期間	◎2020年8月10日(月)～2021年1月15日(金)必着
結果発表	◎2021年5月下旬頃、受賞者に通知するほか、公式ホームページにて発表予定。
審査	◎「同朋学園新シンボルマーク選考委員会」にて審議し、採用作品を決定します。 審査員 〈第一次審査〉 廣村正彰(グラフィックデザイナー、名古屋造形大学客員教授) 小川明生(グラフィックデザイナー) 伊藤豊嗣(グラフィックデザイナー、名古屋造形大学 副学長) 〈第二次審査〉 甲村和博(学校法人同朋学園 理事長) 松田正久(同朋大学 学長) 佐藤恵子(名古屋音楽大学 学長) 山本理顕(名古屋造形大学 学長) 滝 敏行(同朋高等学校 校長) 馬越恵子(同朋幼稚園 園長) 伊藤豊嗣(名古屋造形大学 副学長)
賞	◎賞金＝最優秀(採用作品)1点に30万円と賞状、入賞作品4点に賞状を授与。
応募規定	◎新シンボルマークは同朋学園の理念(次ページ参照)をあらわすものとして考案してください。 ◎作品はカラー、単色のいずれでも構いません。ただし白黒・単色で使用する場合も考慮してください。 ◎応募作品には必ず作品の意図、解説の文(200字以内)を添え、応募方法に従い提出ください。 ◎拡大・縮小する場合も考慮してください。特に縮小に関しては10mm×10mmの大きさでも認識可能なものにしてください。 ◎応募作品は、シンボルマークの天地左右いずれかを100mm以上としたデジタルデータ(JPEG、BMP、Illustrator Aiのいずれかの形式で、20MB以下)を作成し提出ください。 ◎JPEG、BMPデータの場合、解像度は350dpi程度としてください。 ◎デジタルフォント使用の場合はアウトライン化してください。 ◎手描き原稿をスキャンしたデジタルデータでの応募も可としますが、採用時手描き原稿の提出を条件とします。データ化する必要があるため手描き原稿の天地左右いずれかは200mm以上としてください。 ◎作品応募数の限定はありません。1名・1グループあたり何点でも応募できます。

その他

- ◎応募作品は、応募者のオリジナルな創作であるとともに国内外未発表のものとしてください。
- ◎応募作品は返却いたしません。
- ◎採用作品の著作権（著作権法第27条および第28条に規定する権利を含む）及び一切の関わる権利は、学校法人同朋学園に帰属するものとします。また、受賞者は採用された作品に関して著作者人格権を行使しないものとします。
- ◎審査の過程及び審査の結果に関するお問い合わせについてはお答えできません。
- ◎シンボルマークとして使用するうえで、採用作品に加工または調整する場合があります。
- ◎採用作品が他の著作権等を侵害している恐れがある場合（極めて類似の作品があることが判明した場合を含む）、賞を取り消すことがあります。すでに賞金等を進呈した後にその事項が判明した場合、賞金等は返還していただきます。
- ◎応募者の個人情報応募者の許可なく第三者に開示・提供せず、業務終了後、適切に破棄します。

応募方法

- ◎下記メールアドレスの本文に、「①応募者氏名、②住所、③年齢、④電話番号、⑤作品の意図、解説（200字以内）」を書き、「⑥作品画像データ」を添付し送信ください。
※応募作品が複数の場合は、お手数ですがメール1通1作品で応募ください。

doho100@doho.ac.jp

このメールアドレスは作品の応募専用となっております。

お問い合わせ

- ◎お問い合わせはメールのみの対応とさせていただきます。
info100@doho.ac.jp までにお送りください。追って回答いたします。
※夏季や年末年始など、学園の事務休止期間につきましては、回答が遅れることがあります。

学校法人同朋学園 学園理念

「共なるいのち」を生きる。

『人間』は文字通り、他者とのかかわりの中で、それぞれの生を営んでいます。
他者が在るからこそ自分も在るという「関係的存在」。
それが私たち人間の在り方にほかなりません。
しかし、このような関係的存在を生きる私たちは、他者との間に、
確かな結びつきを持てているでしょうか。
本当に豊かな関係を生ききれているのでしょうか。
弱い者がいじめられたり、異なることによる排除や差別があったり。
むしろ現実には、
本来あるべき「共生」ということとは遙かに遠い生き方をしているのではないのでしょうか。
他者へ、社会へと働きかける中から、
「関係的存在」としての私たちの在り方に正しく目覚め、
あらゆる差異(ちがいを認め合い、
それぞれの個性が輝くような豊かな関係を取り戻していく歩みが始まります。
この歩みこそが「共なるいのち」を生きることへの関係回復の歩みであり、
同朋学園に学ぶ私たちに願われていることなのです。
幼稚園、高校、大学、それぞれのステージで私たちはこの願いに目覚め、
学び続けています。